-41-家庭の学びと研究 2022 年 6 月号

山本周五郎の人情もの現代小説『寝ぼけ署長』の五道署長は、クールな頭脳とホットな心の持ち主。市井に交わり、事件が表沙汰になる前に、更に、起こるであろう犯罪が、犯罪になることのないよう、人情味あふれる方法で穏便に解決してしまいます。転任が決まると、別れを悲しみ、留任を求める市民が押し寄せて幕を閉じます。心の晴れる展開と結末で、爽快な気分になります。ものごとが円滑にはこんでいる限り、この署長が人知れず果たしていた「優れた社会基盤の恩恵」を、我々は全く意識しません。電気もインターネットも、停電や不通になって、はじめてそのありがたさに気づきます。

飛躍ですが、五道署長のように、家庭の全部を 切り盛りしていた妻の体調が優れなくなり、負担 軽減のため、僕が食事と買い物の2つを分担する ことにしました(食べることと、お金を使うこと が好きなので)。必要最低限の食器や調理器具や 食品ストック、整理整頓された台所用品や生活雑 貨、標準化された調理手順(特に米を研ぐ手順 と、文化鍋でのガス炊飯)、食品と生活雑貨の調 達先など、妻の敷いたレールの上を走って、何と か完遂できています。長年の「家庭経営」が生活 基盤として安定稼働していたおかげです。

「家庭経営」とは、家族や個人の欲望や希望を達成するために、家庭で行う仕事です。社会の進歩と文化の向上で、欲望や希望は増幅します。それらを満たすための物資の質・量は拡充し、社会サービスも高度化・多様化します。物資とサービスをうまく生活に取り入れ、能率的に活用するため、不断の努力と「学び」が必要になります。

欲望には、食欲、睡眠、休息、愛情の交換があり、人間らしく生きるためには、教養、運動、趣味、社交などの多様な営みがあります。欲望や希望の達成には、愛情、能力、時間、労力、金銭、衣服、食物、住居、家庭設備、社会施設やサービスなど、有形無形の多くのモノが使用されます。そして、家族の衣食住の生活、育児、教育、家計、衛生、健康、看護、交際、一家団欒、娯楽などの仕事が処理されます。卑近な例では、大学院の学費や調査費、修論のグループインタビューの接待など、妻には世話になりっぱなしです。

本来,家族全員が参画すべき「家庭経営」は, 一般に主婦の受け持ちです。退職を機に,家事的なものは夫婦で協力しあい,主婦は判断能力と選択能力を必要とする経営方法に傾注すべきです。 先細る家庭資源や多様なサービスの運営・管理への機敏な対応には,主婦の「学び」と「研究的な態度」こそ必要になるでしょう。

-40-大学改革の迷走 2022 年 5 月号

佐藤郁哉『大学改革の迷走』(ちくま新書 2019 478p)は、大学設置基準の改正(1991 年)以降の大学改革の奇妙な点や、不可思議さを問い直した結果を、5つの「病根」にまとめています。

- 1) 舶来崇拝の習癖・メンタリティ(1,2章)
 - :和風シラバス, PDCA の幻想
- 2) 改革の自己目的化 (1~4章)
 - :面従腹背,過剰同調,形骸化
- 3)集団無責任体制(5章)
 - :日本の宿痾
- 4) ドラマ仕立ての改革論議 (6章)
 - : 実効性のある改革の妨げ
- 5) リサーチ・リテラシーの欠如 (7章)

: 政策を正当化するデータだけつまみ食いさて,病の処方箋は,1)から4)までの狭隘な思考回路から抜け出し,エビデンスに基づく政策を立案・実行することです。しかし,現実には簡単ではありません。

例えば,2013年度から実施されている「私立 大学等改革総合支援事業」には,気が遠くなるほど多数の改革すべき項目があります。シラバスの 作成,授業内容・方法の改善への組織的取組み, 学生による授業評価,履修科目登録の上限設定, 厳格な成績評価(GPA制度),FD(大学教員の資質・教授能力の向上)などです。

その中に、学生の学修時間や教育の成果等に関する情報を収集・分析する IR (Institutional Research)を専門で担当する部署の設置があります。中小規模の大学には兼務でもハードルが高い項目です。また、入試、教務、学生、就職の各業務を統合したシステム導入の経験で、一括運用しようとしても、学内事務組織の縦割りから、学籍ID をキーにした従来の個別業務システムからのデータ統合も大変な作業になります。支援事業への回答期限が迫る中で、十分な準備期間がないままの見切り発車は、現場的にはお勧めできませんでした。

本書では、病理診断のエビデンスとして、多数の文献と大学改革関連の答申を参照し、綿密に読み解いています。今後の大学のあり方を整理・検討するための必読書で、自身の大学や学生への関わり方を深く再考する機会にもなります。日常業務と並行して、将来へ向けた自分磨きのための一冊です。

-39-女性脳の仕組み 2022 年 4 月号

もの事の仕組みには、大いに興味があります。 社会がどうして理不尽に動くのか、社会の仕組み をいくらかでも知っていれば、想定外の事態に陥 って慌てることがあっても、冷静に対応できる場 合があります。先回の『日本社会のしくみ』より も、身近な存在である「妻」の仕組みに関する本 がありました。黒川伊保子『妻のトリセツ』(講 談社+ α 新書 2019)です。

退職前から会話が多い夫婦には、二人の会話がかみ合わないことが普通にあります。興味対象や考え方が違うせいもあり、話の構成や組み立てなど、コミュニケーション方式の差もあります。この差の生じる仕組みが本書で解明されます。

例えば、病院で検査をしたとして、過去のこれまでの病気やその対応などで、妻の話が長くなります。夫は、長引く会話の継続が億劫になります。勝手に要約して「要するに・・・ということ?」としたり、論文を書いているわけでもないのに「結論から先に言ってくれる」などと先を急がせ、話をまとめて、お開きにしようとします。そして、妻の不興を買ってしまい、気まずい雰囲気になります。

女性脳は目前の問題解決のため、過去の関連記憶を瞬時に引き出し、最適解を導く究極の臨機応変脳です。体験記憶に感情の見出しを付与して収納し、一つの出来事を引き金に、何十年分もの類似記憶を一気に展開できます。

妻の話が長くなるのは、女性脳だからです。もし、夫が不用意に無神経な発言をしたら、「無神経」という見出しがついた過去の発言が、生々しい臨場感を伴って、すべて妻の脳裏に蘇ります。夫にとっては「たったこれだけのこと」でも、妻から、10年も20年も前の出来事まで含めて、一気に何十発もの怒りの弾丸が飛んできて、夫の命は徐々に削られます。身の安全が最優先です。

井戸端会議的な様相の会話から事例を収集し、 今後のために索引化して収納する作業が重要で、 男性脳の求める結論や要約は重要ではないので す。愚痴に対しては「わかる。大変だね」と共感 し、頼まれてもいない要約や解決策の提示は無用 なものと割り切ります。穏便にも最優先?

解剖学的に脳は同じでも、処理プロセスに性差や個性があると考えれば納得です。これまで知らなかったコミュニケーションの仕組みが隠されていました。次は『夫のトリセツ』を読みます。

-38- 日本社会のしくみ 2022 年 3 月号

『日本社会のしくみ:雇用・教育・福祉の歴史社会学』(講談社現代新書 2019 601p)を,年明けから2ヶ月かけて,やっと読み終えました。長年の疑問,1)日本では学んだ内容・学部より大学名が重要なのは何故なのか,2)仕事のやり方を変えるのが大変なのは何故なのか,この2つの解明に一歩でも近づける予感がしました。

人生の類型として、大企業型、地元型、残余型の3つを提示しています。大企業型は、大学を出て大企業や官庁に雇われ、正社員、終身雇用の人生をすごす人たちとその家族。地元型は、地元の中学や高校に行ったあと、農業・自営業・地方公務員・建設業・地場産業などで働き、地域や家族間の相互扶助のなかでの生活。残余型は、長期雇用とは無縁で地域社会につながりもない、都市部の非正規労働者がその一例、残余にマイナスの意味はなく「カイシャ(職域)」「ムラ(地域)」に帰属しない人たちの生き方。

この類型には納得で、新潟から首都圏の大学に 進学し、実家の家業を継がず、就職浪人1年を経 て、私立大学に就職し、図書館への配属となりま した。家業の地域型から大企業型への転身といえ ます。卒業した理工学部とは全く異なる職種です が、経営工学という経済と理工を合体した学科だ ったので、情報を扱う図書館との親和性は悪くあ りませんでした。

企業の社員は、職種が固定されず定期異動が一般的で、遠い地域への異動もあり得ます。従って、職種は重要でなく、地域に愛着も持たないのが通例です。そして、同じ会社に入ってしまえば、社員は基本的には平等で、学歴などよりも「社内のがんばり」が評価されます。

欧米では、新卒一括採用ではなく、欠員募集が 基本で、欠員になった職務(ジョブ)の学位や経験 をもつことが採用条件になります。そのため、大 学名より、そこで学んだ学位が重要になります。 日本と雇用慣行が異なるため、職務の専門化と学 位の専門化が呼応して、大学名より学んだ学位が 重要になります。これが疑問 1)の解です。

疑問 2) の解のおおもとは「慣習の東」です。 終章"「社会のしくみ」と「正義」のありか"では、500ページ以上に及ぶ1章から8章を要約しています。要約が「慣習の東」の正体なのでしょう。そして、読者も社会の一員なのだから、本を読んだ後で、自分で考え、周囲と話し合い、その過程を通じて結論をつくりましょうと、突き放されます。疑問は一部解消しましたが、新たな課題を背負うことになりました。読書は面白いです。

-37- 読書(本を読むこと)の効用 2022 年 1 月号

ラノベ,コミック,アニメを読んで観る毎日です。学園ラブコメが愛読書なのは、暗い学生時代の反動であり、学びからの逃避なのでしょう。日本のコミックは、海外でも驚くほど多く翻訳・出版され、米国の公共図書館でも所蔵されています。わが国のサブカルは、国内外への重要な文化・戦略資源といえます。日本社会の内実を知らない海外の人たちは、学園ラブコメをファンタジーとして読むのだそうです。FMICSの例会で学生の方から教えてもらいました。なるほど、納得です。他者との対話によるコミュニケーションは、読書による自己との対話(著者との自分のペースでの対話)を超えた驚きに満ちています。

先月、紹介したように、英語に翻訳された電子コミックを自宅から借りることができます。英語の勉強にもなります。読み方・目的は様々です。読書、本を読むといっても、小説、新聞、雑誌、マンガ、専門書、学術論文から、Web サイト、ブログ、ツイッターなど、文字・活字を中心としたメディアを読む広範囲な行為です。

年齢による読書の発達段階もあります。幼児期は、言葉を覚えて文字を認識・獲得し、学童期は、学校で言語を体系的に学び、読書の技術を習得します。ここまでの段階を経て、青年期は、語彙の獲得と内容の深い理解です。読書は、自己変革と主体性の確立であり、集中力と理解力が必要です。情報や知識の獲得以上に、何よりも豊かな人間性の涵養が読書の効用といえるでしょう。

以下の図書は、司書教諭養成科目のテキストの一つで、読書のなかにどのような学びがあるのかも述べています。**天道佐津子『読書と豊かな人間性の育成 改訂版』(2011 青弓社)** (p. 106-110)

「人間以外の動物は生る力の多くを本能として身に備えているが、人間はこれを学びによって獲得しなければならない。人間は世界からの問いかけに答える存在であり、直面する問題を解決しながら生きる。教育を受け、先人の遺した知恵を引き継ぎ、知識を蓄え、生きる技術を磨き、課題に答える。更に、問題の発見・提起、新しい問いを発し、知恵を獲得し後世に遺す。問い・答え・問いのサイクルこそが人間」

読んで、調べて、学んで、分かって、更に疑問 がわいて、愉しいエンドレスが読書の効用です。

-36- 電子メディア 2021年11月号

インターネット時代におけるメディアの電子化は、本と大学と図書館の3者に共通する話題です。1)紙の本と電子書籍,2)対面授業と遠隔授業における教科書とGIGAスクール,3)館(やかた)としての図書館と電子図書館,という具合です。

米国の図書館では、電子書籍や遠隔サービスは、20年前から提供されていて、市民生活で普通に使われています。我が国の公共図書館のサービスに比べると格段に高機能です。社会における図書館の役割の差がそのまま反映しています。岡部氏の紹介している Queens Public Library (New York) は、日本で暮らしていても eCard が発行されます。Web から年間 50 ドルをカード決済して、簡単に利用登録できます。"Queens Public Library eCard"で、登録画面が検索できます。

岡部一明『アメリカの電子図書館と E-BOOK 市場』(デザインエッグ 2019) [Amazon で購入可能]

電子書籍,電子雑誌が登録した瞬間から使えるようになります。鳥山明「Dragon Ball」(英語版),どういう訳か「ニューズウイーク日本版」,「サンデー毎日」,よく立ち読みしている美味しいもの雑誌「dancyu ダンチュウ」などの最新号とバックナンバーを借りて,ブラウザで読むことができます。全部ではありませんが,データベースも使えます。残念ながらというか,当然というべきか,紙の本は海を隔てているので借りることはできません。

本と大学と図書館は、市民生活における知的情報資源・基盤として、大きなパワーを秘めています。3者が協力してそのパワーの開放に努めるべきです。流行のDX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉に振り回されることなく、電子メディアの本質を見極めたいものです。

電子メディアは時間と距離に束縛されません。 その特性を活かして、グローバルな公共サービス が展開できます。また、図書館で所蔵する情報 は、使うことによって消費されることも劣化する こともありません。公共財としての情報を、地域 や自国内で囲い込まず、社会全体の情報基盤とし て公開し、有効活用を積極的に行う社会が垣間み えます。もちろん米国の図書館すべてが、メディ アの特性を活かし、情報基盤を活用できているわ けではないでしょう。今後の調査課題としてメディア活用は興味を惹かれます。

-35- リレーのバトン 2021年 10月号

本の帯に「2021 年秋映画化決定!」とあるのは、瀬尾まい子『そして、バトンは渡された』(文春文庫 2020)です。主人公は、複数の養父母の間をリレーのバトンのように手渡されて成長すします。現実にはあり得ない設定のファンタジックでハートフルな小説です。好みが分かれますが、ハッピーエンドなので好きな作家です。

今回のキーワードはバトンです。大学や図書館の場合は、ミッション、使命、任務、仕事、業務と考えられます。営利企業、公共サービス、高等教育において、養父母としての運営形態や雇用形態が変わっても、バトンを繋げなければなりません。バトンを落として、バトンが渡らなくとも、想いを渡すことができれば、バトンは再生して未来に繋がります。

地方自治体でも、「管理委託制度」を一歩進め て,公共サービスの質を高め,管理費用を低く抑 えることもねらった「指定管理者制度」(2003年 9月施行)が導入されました。「地方公共団体は、 その事務を処理するに当つては、住民の福祉の増 進に努めるとともに、最少の経費で最大の効果を 挙げるようにしなければならない」(地方自治法/ 第一編総則/第二条個)に根拠があります。しか し、サービスの質や福祉の増進の「最大の効果」 を評価した結果の信憑性に疑義があります。運営 形態が変わった年度には、従来サービスの水準は すぐには劣化せず、低価格の委託によって運営経 費が減るので、数字的な費用対効果が向上する点 が曲者です。自治体、ひいては住民による、低賃 金化した勤労者からの, 意欲の搾取であり, 家計 の搾取です。

図書館という機能・制度を繋ぐために、本というバトンをつくり、運営者と多くの読者・住民 に、広く手渡そうとしている人たちがいます。

NPO 法人 本と人とをつなぐ「そらまめの会」 『私たち図書館やってます!:指定管理者制度の波を超えて』(南方新社 2011)

運営・雇用形態が多様化する中での事例を紹介 し、設置者と利用者に「最少経費・最大効果」へ の真剣な評価を促しています。 -34- 茹でガエルと神眼 2021 年 8 月号中桐有道『「ゆでガエル現象』が会社を潰す:マンネリになっていないかマーケティングとマネージメント』(工業調査会 1992)。本のタイトルがキャッチーです。「カエルをいきなり熱湯に入れると驚いて逃げ出して助かるものの、常温の水に入れて水温を上げていくと逃げ出すタイミングを失って死んでしまう」という例えです。マンネリ化は、人や企業は無意識のうちに空しい世界へと簡単に誘導し、それを食い止めるには、鋭い感度と創造力で経営を見直し続けることが必要で、その実践方法を提言した本です。

2006年には、同じ著者が内容を発展させた 『「ゆでガエル現象」への警鐘:あなたは大丈夫 ですか?』を出版し、2003年には、大前研一、 田原総一朗の共著で『「茹で蛙」国家日本の末 路:日本が元気になる最後の一手』も出版されて います。心理学者、経済学者、経営コンサルタン トがよく使っていた時期があるので、ご存じの方 も多いと思います。

しかし実際のカエルでは、熱湯に入れると即死 し、徐々に熱くすると逃げ出してしまいます。た だし、日本社会では逃げ道に頑丈な蓋が設置して あって逃げ出せないし、逃げない選択という心理 的な蓋や縛りがある場合もあります。

茹ってしまわないための究極の能力は、人間わざをこえた鋭敏さで、対象を見抜く神眼(しんがん)をもつことです。現実的には、広い視点の曇りのない瞳で、本質を見抜く心がけです。

論文指導を受けていると、数時間以上かけた (個人的な)労作を、指導教授は3分間ほどパラパラと眺めて、問題点、展開の甘い点を全て指摘します。書いているときに気になったけれどもスルーした部分、良く考えのまとまらないまま書いてしまった部分、意識に昇った問題部分は残らず、自分で意識していなかった部分も全てです。更に、自分で考えた末に到達できなかった出口のヒントもくれます。どうやって、そんなに早く読むことができ、的確に問題点を指摘できるのか質問すると、問題の箇所が自然に目に飛び込んでくるという答えでした。良い論文をいっぱい読んで、自分で書く「慣れ」なのだそうです。備わった能力・才能の差だと思うのですが、目指すべき到達点は、はっきりと捉えることができました。

別の指導教授には、「近頃、時代小説が多く出版されるのは何故?」と尋ねたことがあります。 「年配者が増え、彼らは時代小説を好むから」と

「年配者が増え、仮らは時代小説を好むから」と 即答でした。人情とか、勧善懲悪とか、自分の嗜 好傾向に、改めて思いを巡らせます。

曇った瞳に,偏見の眼鏡をかけ,視野狭窄な考え方の自分でも,茹で蛙にならないよう心がける ことはできます。 -33- フローとストック 2021 年7月号 矢野暢『フローの文明・ストックの文明』 (PHP 研究所 1988) は、30 年以上前に出版された本です。バブル経済の時代、日本がとてつもない存在感を世界に示していた頃です。「今の日本文明は、庶民が主役の文明であり、フロー経済が実質をつくっている文明といってもよい」と帯にあります。

また、「ストックやフローをいうとき、経済学的な二分法としての『貯蓄=ストック』、『消費=フロー』ではなく、人間が自分の一生より長くもつものを作って残そうとする執念をもつ事実に着目して、その傾向性を『ストック』といい、他方、消費や消耗、回転の早い流通などに意味をみる人間のもう一面に注目して『フロー』という。人間がストックに執念を燃やしはじめると社会はどうなるのか、逆に、人間の価値観がフロー本位に流れると社会がどうなるのか考える」(まえがき)を、問題意識としています。

学問上の成果である優れた学術書は、長い生命をもち、知のストックに相当します。図書館員的には、大学における知のストックとして、図書館蔵書を重視しがちです。ストック(蔵書)とフロー(利用)の両輪を意識して図書館を運営しているものの、図書資料を集めて所蔵管理するストック性への配慮が強すぎて、「使い勝手が甚だ悪い」と、梅棹忠夫(国立民族学博物館長)・遠山敦子(当時文部省課長)の対談が紹介されています(p. 138-9)。

資料の選択に関しては、騎士道を研究テーマとしている博士課程の大学院生が必要な図書をすべて購入するようにしていました。一時期の狭い主題範囲を優先しても、100年の時間軸でみれば、多くの特定領域を研究する院生がやってきて、大学全体としての研究領域は広がり、すり鉢状に深いものになります。騎士道は武士道と通じると言われ、新渡戸稲造『武士道』の関連資料への購入希望にも応じ、周辺領域が充実しました。

大学教員は、教育とともに、調査・研究を行 い、研究成果を学術雑誌や学術書として出版・公 開します。こうした先行研究をもとに研究は更に 前進します。これが学術情報流通のサイクルで す。研究助成金や大学運営費は、このサイクルを 駆動させる燃料に相当します。大学評価の際に、 経費削減の効果が大きいのは図書館資料費と、関 西の大学上層部の方が話されていましたが、教育 研究の燃料の扱いは、長期的な高等教育機関の存 在意義に関わる判断です。旧職の大学運営におい ては、財務部門の理解もあり、教育研究関連の予 算は優先的に配分され、シーリングはかかって も,図書館資料費も他の大学と比較して潤沢でし た。教員・院生、経理部門・大学上層部との友好 関係(フロー)こそ、最重要人的資源(ストック)に なります。

-32- 図書館は大学の心臓 2021 年 6 月号

"The Library is the heart of the University" と、1873/74年の「学長および財務担当者の年次報告書」で記したのは、ハーバード大学学長・チャールズ・ウィリアム・エリオット (Charles William Eliot 1834—1926) でした。

Annual Reports of the President and Treasurer of Harvard College 1873-74. p. 39 http://pds.lib.harvard.edu/pds/view/257432 0?n=2199

このフレーズを誰が最初に用いたのか諸説ある ものの、エリオットが最初との言説が大勢です。 年代的にも古いことからこれが正解でしょう。

Brough, Kenneth J. Scholar's workshop; evolving conceptions of library service. Gregg Press, 1972, p. 24.

これ以来,大学図書館は,大学における空間的な中心や,活力の中心として広く認識され,大学における学習・教育・研究の拠点として発展してきました。一方で,中心であるべき図書館の低迷を強調する意図で,修辞的に心臓という表現を使っている例も多くあります。

ハーバード大学は1636年創設,日本では三代 将軍家光[在職1623年~1651年]の時代です。現 在の図書館は1500万点の蔵書を誇ります。東京 大学980万点と京都大学720万点の合算,また は、日本大学520万点、慶應義塾大学500万点, 早稲田大学570万点に匹敵し、教育・研究に資す る図書館の膨大な蔵書規模が了解できます。

エリオットは若干35歳で学長に就任し、1869年から1909年まで最高責任者を40年間の長きに渡って務めました。総合大学の選択科目制を実施したことで知られ、1873/74年報では、「倹約と慎重さの時は、手元にある資源を使って静かに最善を尽くすこと」と、「図書館のサービスを利用したい学生に適切に対応できず、本の保管のための出費も必要」に続き、"The Library is the heart of the University"と強調し、図書館拡大に8万ドルを計画しています。図書館は大学年報における重点項目に取り上げられています。

何より、学長の現状報告から、今後の計画までを述べた大学年報が、歴史的な公文書として100年以上前から作成され、21世紀にはデジタル化され、インターネット公開されていることは驚きです。大学年報のアーカイブは、利用が頻繁になされることはないものの、温故知新の意味で大変有用な資料です。そして、アーカイブのプラットフォームとして図書館が機能しているのは、図書館が大学の活力の源であり、大学や文化の記憶装置であり、社会や文化の情報基盤として米国の社会にしっかりと根付いているからなのでしょう。

-31- 紙が燃える華氏 451 度 2021 年 5 月号

本が重要な道具立てとなっている作品の一番は、レイ・ブラッドベリ『華氏四五一度』(1971原作1953ハヤカワSFシリーズ3065)です。未来の社会では、部屋の四方の壁面全体を占めるテレビと、耳に一日中入れておく超小型ラジオが、日常生活の中心となっています。ドラマと音楽に溺れ、個人的な学問が禁じられています。住民にとってはユートピア的でも、読者からみると強制収容所のようなディストピア的未来は、ブラッドベリが抒情的に描写するSF小説です。

主人公は,本や雑誌など,秘匿されている知識の源となる印刷物を探し出し,燃やしつくす焚書官(ファイアマン)です。本書のタイトルの華氏451度は紙の燃える温度です。最後は,些細なきっかけから,本を読んでしまった主人公が,本に目覚めてしまい,反社会的とみなされている集団に身を投じます。それは,本を頭にしまい込み,いつか誰かの役に立つことだけを心掛け,子孫に書物を伝えるため,分散して放浪者する集団です。

1967年に監督フランソワ・トリュフォーで映画化され、2018年にはリメイクされています。関連して、世界で一冊だけ残った本を運んで旅する、デンゼル・ワシントン主演「ザ・ウォーカー」(2010)は、暗めの情景に満ちたクールな作品です。先日、『華氏 451 度』を読み返した際に、3本ともサブスクリプションと若干のレンタル料を追加して観てしまいました。物流が発展して、欲しいものがすぐに手に入る便利さの反面、労せずに得たものの価値を軽く感じることがあるものの、決して後戻りはできません。

現在、自分自身の日常生活では、ネットで買った電子書籍・コミックや、サブスクリプション契約している映画・アニメ・音楽を、PCとBluetoothのヘッドセット(家族と一緒の生活では周りの迷惑にならないよう手放せません)で視聴しています。必然的に、PCに向かっている時間が多くなっています。この小説の享楽的な市民のような生活を送っていることに驚きます。PCとインターネットの利便性によって、ごく自然に生活が誘導されます。流されすぎないように注意するとともに、意識的に生活を振り返りってみることも大切です。

この本を買って読んだのは,50年ほど前,本好きの高校生の頃でした。段ボール詰めして実家に置いていた小説類の立ち退きを迫られて,一旦,レンタル倉庫を短期間契約して,クリーニングと整理をして,何とか家に納めることができました。短絡的に本を処分しないで良かったです。コミックなら,Kindleでもページの体裁は変わりませんが,やはり本は本の体裁で読みたいものです。

-30- 情報リテラシー(2) 2021 年 4 月号

情報リテラシーは、継続的な調査課題で、各種メディアを網羅的に目配りしています。本コラムの2018年12月号に最初に書いて以来、2年以上が経過しましたが、2025年1月の大学入学共通テストから、教科「情報」が新教科として出題される発表もありました。近年は、リテラシーを取り巻く状況も大きく変容しています。今回は、「調査」と、「調査する住民」に関する3冊の紹介です。

今年2月,神奈川県立高校入試の国語の問題で は、ネットと本を対比した、情報と知識の違いに ついて述べた文章が出題されました。 吉見俊哉 『知的創造の条件: AI 的思考を超えるヒント』(2020 年 筑摩選書 0190)の, 第3章「ポスト真実と記 録知/集合知」の2節「知識における作者性と構 造性」(p. 119-125)からでした。本書は、デジタ ル化の進展と知識の断片化により, 大学から社会 全般まで、知的創造のための社会的条件が弱体化 しているとして、知的創造を支える図書館や大 学、デジタルアーカイブなどの社会的基盤がどう あるべきか、知的創造をいかにして奪還するかを 論じています。本コラム「本と大学と図書館と」 の問題意識を改めて確認できる内容でした。読者 対象は、一般住民向けというより、大学生向けな のでしょう。社会学的系譜としての**清水幾太郎** 『論文の書き方』(1959 年 岩波新書)や、情報学的 系譜の梅棹忠雄『知的生産の技術』(1969年 岩波 **新書)**から続く、知的生産・創造をテーマにした 本は数多く出版されています。本書がこれまでの 本と一線を期するのは、社会的基盤の視点から論 じている点でしょう。

佐藤優『調べる技術 書く技術: 誰でも本物の教養 が身につく知的アウトプットの極意』(2019 年 SB クリエイティブ)は、専業作家としての知的生産術をまとめたとしていますが、知的生産とは社会のトップ1%のスキルではない、としています。知的生産の重要な要素として、「楽しんで仕事をすること」をあげ、知的生産力は高めることによって、人生の充実度が上がることの重要性を強調しています。自分たちがより安心して暮らせる社会をめざす、そのための「調査」を想定した本です。

更なる一般住民向けの本として、**宮内泰介**; 上田昌文『実践 自分で調べる技術』(2021 年 岩波新書 新赤版 1853)があります。複雑な社会にあって、国や専門家任せにしないで、自分たちのことは、納得できる形で、自分たちで決め、自分たちで解決することを勧めています。一人ひとりが生きていくなかで必要なことを「調査する」、自分たちにとって必要なことを見極め、具体的な解決策を実行する、調査者と実行者が同じであることが最大の特徴で、それが住民による調査です。

-29- スモールワールドな BOOK PARTY 2021 年 3 月号

スモールワールド・ネットワークという用語に出会ったのは、**ダンカン・ワッツ『スモールワールド・ネットワーク:世界を知るための新科学的思考法』(2004 年 阪急コミュニケーションズ)**においてです。理論的には、世界の人々が、それぞれ100人の友人を持っていれば、六次のつながり(100*100*100*100*100=100億)のうちに、地球全体の人口と自分を簡単につながります(p. 40)。 "人間関係のネットワークで、知り合いを数人程

"人間関係のネットワークで、知り合いを数人程度たどれば、世界の誰とでもつながりがあるという、心理学者ミルグラムの1967年の実験による仮設で、知り合いの知り合いを繰り返し辿って行くと、6人目でほぼ世界中の誰とでもつながる「六次の隔たり」というスモールワールド現象です。この現象を解明した著者による本です。本の紹介はここまでです。

さて、読者は、本を読んでいる最中に、気にな ったフレーズで立ち止まって考え、咀嚼し、妄想 をも広げることができます。活字や Web サイトの 情報も含め、文字全般では、自分主導で情報摂取 を進行できます。メディアとしての特徴を考える と、映画やアニメなどの動画と異なる特徴です。 ただし、動画も一時停止できますし、ライトノベ ルなどは一気呵成に読破したほうが爽快です。村 山由香さんの「おいしいコーヒーの入れ方」全 19巻を7巻で中断して書いていますが、どこま で読んだということが、紙の本では簡単にわかり ますが、電子書籍ではわかりにくくなります。本 の場合は、出版社 Web サイトでの本の紹介、新聞 や雑誌などの書評があるので、本の内容の概略や 主張が把握でき、その本が読むに値するかどうか 簡単に判別できます。メディア関連はここまで。

さてさて、2月に初めて参加した FMICS BOOK PARTY は、一種の読書会といえますが、参加者の職業は高等教育サービスを大きく超えるものでした。年代が高校生から退職者まで幅広い点が刺激的でした。ネットワークとリテラシーについて大いに考え方をブラッシュアップできました。一冊の本を起点としたスモールワールド・ネットワークでした。

最後、「届ける」から「得る」へ転換です。常に我々は、求める物事や情報を、環境や社会生活の中から得ています。情報探索行動では、寒いから厚手のコートを着て出かけるのは、環境モニタリングです。電車の吊るし広告やWebから、興味対象の本や情報を偶然に得るのは、情報との遭遇です。BOOK PARTY という興味対象を一冊の本として、問題意識を一つにしたグループ内での意見交換・議論は、スモールワールド・ネットワークによる問題解決となります。

-28- マクドナルド化する社会 2021年2月号

図書館事務室内の受入係用の書架には、支払いや目録作成をする前の本が並びます。本棚をブラウジングしても、知識との思わぬ出会いがありますが、受入書架には、毎週、新しい本が並びます。新聞の新刊案内のようにワクワクします。図書館に出入りする教員や、図書館員の醍醐味です。

最近は是正されていますが、大学図書館では本のカバーを取り除いて、書架に並べます。本を裸にしているようなものです。カバーは閲覧や貸出が続いて破れるので、図書館の長期保存に馴染まないというのが理由のようです。公立図書館のようにビニールのカバーをかけるのは手間であり、非効率です。汚れの付着が目立つというのも理由のようです。「ようです」としか言えないのは、深く調査していないからですが、解明したい課題のリストには載せてあります。

書店でカバーのついた本を見たのと、図書館の本の第一印象が異なるのはそんなわけです。カバーを取り去るのはもったいないので、公立図書館のようにカバーを残す大学図書館が増えました。カバーを残して数年が経過して、カラフルなカバーのついた本が増えると、グレー系の本棚の暗い印象は、一変して明るくなります。大げさに表現すると、図書館全体が明るくなります。それにつられて、学生や教職員、図書館員の表情も明るくなります。本が人々の笑顔を誘うのでしょう。

さて、受入書架での素敵な出会いの一冊があります。ジョージ・リッツア『マクドナルド化する社会』(1995 早稲田大学出版部)です。表紙に大きなハンバーガーが描かれ、食欲と読書欲をそそります。世界を席巻するマニュアル化と効率最優先が、人間性を喪失させるという主張です。教育や医療は、効率とは距離をおくべき分野でありたいですが、マクドナルド化からは逃れられません。効率性の課題解決は、1)多様な過程の簡素化、2)製品の単純化、3)従業員よりも客に働かせる、この3点に集約されます。効率優先の結果、人々は、自律性を放棄して機械や手順や規定に従うようになります。食卓の団欒は消え、家族の絆は希薄化します。労働者は疎外されます。そして。無自覚な大衆が生まれます。

同一著者の本は、2001年『マクドナルド化の 世界』、2003年『マクドナルド化と日本』、2008 年『マクドナルド化した社会:果てしなき合理化 のゆくえ 21世紀新版』、2010年『The McDonaldization of Society 6』と続きます 1/22の月例会での「自立した学習者」と、世 界は真逆に進んできたのでしょう。

-27- メディアの特性 2021年1月号

報道によれば、映画『鬼滅の刃』の興行収入が歴代一位に迫っています。角川の「読んでから見るか、見てから読むか」の流れでいえば、最初はTVアニメを観たので、次は映画か、一億部突破の原作コミックでしょうか。緑と黒の市松模様の羽織を着れば、メディアミックスの完成です。羽織までは踏み込めませんが、改めてメディアを考えるきっかけになりました。

1つのメディアで表現されている作品を他の媒体に展開する「表現の多様化」では、**池井戸潤** 『七つの会議』(2016 集英社文庫)が好例です。映画のエンドロールで、野村萬斎が演じる主人公・居眠り八角の「日本独自の企業風土によるデータ偽装と隠ぺい」という独白が興味深く、原作の小説ではどうなっているのか気になりました。以下に要約したように、ずいぶん違った内容になっていますが、どちらも印象に残ります。映画では、藩と企業を並べて風土としていま

映画では、藩と企業を並べて風土としていま す。

日本の場合、会社の常識が世間の常識よりも 大事になってしまう。藩のために命をかけ る。人の命より会社の命を優先して、藩から 出されるのは負けだと思っている。忠誠心と いえば聞こえはいいが、逆に守られてもい る。持ちつ持たれつの日本独自の企業風土 が、資源のない島国を、先進国まで押し上げ た功績もある。一ついえるのは、ひたすらガ キみたいに言い合っていくしかない。悪いこ とは悪い、命より大事なものはない。

小説の最後は、組織や体制より個人です。 妻は「あなたは損な役回りばかり」と笑い、 虚飾の繁栄か、真実の清貧か、偽装に気づい たとき、八角が選んだのは後者だった。後悔 はしていない。どんな道にも、将来を開く扉 はきっとあるはずだ。

原作の小説と映画では、最後の締めくくりが、 これだけ大きく変わります。この差には、メディ ア特性も大きく影響しています。表現される場面 やテーマ、その意味付けについて、小説では読者 が思い浮かべる余地や自由度があり、映画では脚 本と演出による俳優の演技や映像が、視聴者に伝 わる作品からのメッセージを大きく左右します。 また、原作を表現した映画ではうまく了解できな い場面は、原作を読んで納得できることもありま す。一方で、映画には音声・伴奏音楽・効果音も あり、映画を盛り上げます。本と映画を比べる と,表現手段としてのメディア特性の面白さが際 立ちます。『風の谷のナウシカ』では、原作コミ ックが完結する前に映画化され、結末がもちろん 異なります。『鬼滅の刃』は原作コミックが完結 し、そのアニメ化、映画化の続編が、今から楽し みです。

-26- SNS での文章力 2020 年 12 月号

友人・知人・同僚・仲間・家族との繋がり、連絡、情報交換をするための SNS (social networking service)は、現代人の必須アイテムでしよう。文章、画像、動画を扱えるので、初期のウェブページと同等の表現力、それを超える影響力があります。スマホが一台あれば、誰でも簡単に使いこなせます。更に、SNS は、日常的な出来事や自らの考えを世界に向けて発信することで、「友人の友人」やグループの関係性を通じて、新たな人間関係を構築・促進するツールとしての優れた機能も備えています。

今の若者に人気なのは、動画共有のTikTok(ティックトック)やYouTube(ユーチューブ)、写真 共有のInstagram(インスタグラム)です。日記風 ウェブサイトのBlog(ブログ)や、SNS での交流の 先駆けとなったFacebook(フェイスブック)は、 文字の分量が多いです。140字以内で投稿するマイクロブログ的なTwitter(ツイッター)は、従来 のブログより気軽に投稿できる点が、手軽で人気 です。最近は、政治家や企業も活用しています。 メッセージ交換のLINE(ライン)は、テキストだけではなく、写真や映像も扱え、通話もできてしまいます。

図書館員としての司書資格は、教職、学芸員、社会教育主事と共に、多くの大学で開講されているので FMICS の皆さんもよくご存知かと思います。課程科目に「図書館情報技術論」があり、この科目を担当していた関係で、新しく登場した SNS にはすべて登録して、一定期間投稿していた時期がありました。今でも定期的に更新しているのはウェブページだけになってしまいました。自分の性格や目的に合ったツールだけが残るのでしょう。

今回は、インターネット時代の文章術の本を紹介します。久米さんは、公的な「知恵の図書館」とブログを表現しています。毎日の花鳥風月から題材を見つけて思いを伝える「一億総ブロガー時代」も落ち着いています。

久米信行『ブログ道』(NTT 出版 2005)

伝達や発信に際しては、土台としての文章力、 基礎知識としての社会人マナーや読む力などのリテラシー、利便性と危険性のバランス感覚も必要です。岡本さんは、〈伝わる〉ための4つのポイントをまとめています。1)主節部分を前に従属部分は後に、2)意志や要件の明示、3)過剰な敬語は使わない、4)キーワードを意識して書く。

岡本真『ウェブでの〈伝わる〉文章の書き方』 (講談社現代新書 2012)

インターネットを通した対面でないコミュニケーションが増えました。大学における初年次教育や教養教育での「読んで、話して、書く」ことの訓練の必要性を、改めて実感しています。

-25- 情報メディアの活用 2020 年 11 月号

言語によって高度な情報の伝達が可能になり、 文字によって情報の伝達と共に、保存もできるようになりました。情報メディアの発達により、情報伝達・保存の範囲は、地理的にも時代的にも拡大しました。情報伝達の媒体である情報メディアは、羊皮紙や和紙への書写から、活版印刷による本・雑誌・新聞と物理的に発達し、更に、テレビやラジオ、インターネットと、伝達形式も大きく変化しました。

上田修一; 倉田敬子『図書館情報学 第2版』 (勁草書房 2017 p. 58-118)

こうして、情報が世界中の人々に届くようになりました。更に、メディアとしてのインターネットの普及により、情報発信は、出版社やテレビ局、新聞社だけでなく、個人でも「出版者」になれる時代が実現しました。「インスタ映え(バエと言われます)」により、社会への大きな影響力を行使する個人も出てきました。YouTubeで動画配信すればリモート授業もできます。いまでは、スマホー台あれば、誰でも情報を入手し、発信できるようになりました。

個人的に注目している情報メディアの活用は,電子書籍や電子ジャーナルよりも,データベース (以下 DB)です。6月に紹介したジャパン・ナレッジ(JapanKnowledge:以下 JK)です。JK(女子高校生ではないです)は,複数の辞書・事典を全文検索できます。平凡社の日本大百科全書,世界大百科事典,小学館の日本国語大辞典,吉川弘文館の国史大辞典,更に,現代用語の基礎知識,イミダス,東洋文庫などが収録されています。

多くの大学図書館では、JKを自宅や出先の喫茶店からでも利用できるリモートアクセスで提供しています。電子的なメディアの機能を活用して、24時間、365日、何処からでもアクセスできます。原稿やレポートを書いているときに、言葉の定義や、事柄の概要を調べることができ、大いに重宝します。メディアやJK(女子高校生)についてもすぐに調べることができました。朝日、読売などの新聞も提供している大学は多いです。

リモート授業からコロナ後の対面授業とハイブリッド授業を経て、DBのリモートアクセスの有用性が認知され、誰でも普通にDBが使えるような社会になることを強く望みます。そのためには、情報メディアを知悉している図書館員が、DBを販売する出版社に、大学としての要望を取り次ぎ、更に、大学教職員にDB活用の成果を具体的に伝えることが必要になるでしょう。何よりも、先月号の繰り返しになりますが、図書館利用への学生の皆さんの要求に真摯に応えることでしょう。

-24- 電子書籍 2020 年 10 月号

大学図書館に出かけて、本や雑誌を手に取って、閲覧・貸出・複写することが、コロナ以前より煩雑になっています。大学への入構ができても、図書館への入館人数の制限、閲覧のための事前申込、書庫内への立入制限があります。国立国会図書館や公立図書館では、2時間から3時間で総入れ替えする場合もあります。安心・安全のため、自由に資料にアクセスできる図書館の利便性が通常より制限される状況が続いています。個々の図書館によって、制限の程度には濃淡があります。しかし、勉強やレポートを書くため、図書館の資料を使いたいという、ひとりひとりの学生や住民の目線では、仕方のないことと思う反面、納得できない気持ちもあるでしょう。

参照したい本があったら、自宅から24時間365日、電子書籍、電子雑誌、データベースなどの電子資料が、検索・閲覧・印刷できればと考えてしまいます。図書館を運営する立場だったこともあるので、電子資料を提供するには、紙の図書の購入予算を転換したり、経費の増額が必要で、簡単ではないことも分かります。また、自宅で使える環境を整えている大学もあれば、図書館まで出かけなければ使えない大学もあります。更に、大学のレポートや卒論で参照したい専門書の多くは、電子書籍化されていません。こうした電子資料のサービス提供における事実関係は、運営側からサービスの利用者に、きちんと説明する責任があるでしょう。

例えば、電子書籍のジャンルと電子化の割合が 調査されています。日本の電子書籍ではコミック や小説の割合が高く、アメリカではコンピュータ サイエン、情報、哲学、心理学で高くなっていま す。2017年の全ジャンルを対象とした割合は、 日本では37%、米国では60%となります。期待 と現実のギャップは大きいです。

安形輝ほか. 日本における電子書籍化の現状. 日本図書館情報学会誌. 2019, 65(2), p.84-96. https://doi.org/10.20651/jslis.65.2_84 安形輝ほか. 米国における電子書籍化の現状. 日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 2018, 66th, p.113-114.

http://user.keio.ac.jp/~ueda/papers/ebookJSLIS2 01811.pdf

電子資料以前に、もっと本質的な問題としては、自分が使える大学図書館や公立図書館の蔵書数、つまり、利用者として使うことのできる図書や雑誌の量と質には大きな差があります。その数には、十数万冊から数百万冊の幅があります。蔵書数の格差こそ問題なのでしょう。

-23- 一粒一心 2020 年 9 月号

我が家では、無農薬・無化学肥料の銘柄米を、 生産農場から直接購入しています。外食でのご飯が、同じご飯とは思えないほどの美味さです。

「無農薬栽培 有機 JAS 新潟こしひかり」という 商品です。2人家族なので、糖質ダイエットでは ありませんが、1ヵ月 5Kg (3,860 円 内税・送料 別)は、十分な量であり、適正な価格です。

(有)グリーン〈http://www.okome-green.co.jp〉さんとは、1998年から22年間に及ぶお付き合いです。「一粒一心」のお米は直販なので、他の農場のお米とのブレンドはありません。毎月発行の「かわら版」からは、生産者である平石さんたちの顔と稲の生育も紹介されます。通販といえども、Face to Face の関係が成り立っています。

要するに、以下の2点です。生産者と消費者を直結した流通の構築と、甘酒や餅の製造によって、稲作を6次産業化(生産・製造・サービスの統合)した点。次に、愛情豊かに育てて、丁寧に届ける、自社製品への誇りと自信に焦点化した点です。

この機会に、お米についておさらいをしてみました。戦時経済下の「食糧管理法(1942)」、政府への米売渡義務が廃止された「食糧法(1995)」、コメの流通ルートが原則自由化された「改正食糧法(2004)」まで、コメの流通機構も様変わりしています。更に、農水省のデータによれば、国民一人当たりの米の年間消費量は、1962年の118Kgから、2016年の54Kgまで半減しています。食糧政策の変動と米の消費縮小と、稲作における経営環境の変化への対応の大変さが推察されます。

例えば、生産と流通の全体において、生産者と 消費者の中間に位置する組織として農協は、農 薬・農業機械・融資・集荷・価格決定など、支配 的な地位を維持しています。**黒野伸一「限界集落** 株式会社」(小学館 2013)、池井戸潤『下町ロケット ゴースト』(小学館 2018)、『同 ヤタガラス』(小学館 2018)では、農家と農協の力関係が、災害時の融 資や新技術の導入などの場面では、既存の機構と のやり取りが痛快に描かれています。

青春ラブコメの省エネを信条とする主人公のセリフに「やらなくてもいいことはやらない。やらなければいけないことなら手短に」と、社会人的な処世術もあります。確かに、上位組織と対決するためのカロリー消費は半端ではないです。しかし、新しい仕組みの構築に取り組んだグリーンのお米は、手間暇をかけ、高いカロリーを投じた高コスパ商品として、我が家の胃袋をガッチリつかんで離しません。「本と大学と図書館」業界でも、異業種の環境変化への対応や価値創造に学び、学ぶ人たちのハートをわしづかみにしたいものです。

-22- マイナポイント 2020 年8月号

2年間を予定していたコラムが、今後も継続できるようになりました。今回は、ICTや販売促進に関連して、以前から興味をもっていたポイントカードの仕組みについて考えました。

ポイントカードは、買い物した金額によって、100円で1ポイントを付与するなど、系列カードによって還元率や付与率が変わります。ポイントは、系列店で買い物をする時に、ポイント数に応じてリアルなお金として使うことができます。

系列店カードの所持によって、店に顧客を囲い 込み、購買意欲を増進させる仕組みにより、ポイントを貯めるための買い物を誘います。支払いの際には、レジ係がポイントカードの所持を確認 し、未作成のお客には作成を勧めます。

支払の際,ポイントカードが十数枚も入って,パンパンになった財布をもった買い物客の方も,よく見かけます。マイレージやマイルというポイントもあるようです。個人的には、かさばるので、カードは極力つくらないようにしています。

とはいえ, suica, nanaco, サンドラッグカード, オーケークラブ会員カード(高品質・

Everyday Low Price を掲げて、買い物の合計金額が3%オフとなる優れもの)、ビックカメラカード(家電やパソコン周辺機材)など、使用頻度・金額の多いカードは数枚所持しています。また、電子決済でのAmazonポイント、JRE ポイントは決済とセットです。

クレジットカードは、カード会社、保有者、加盟店の3者による、現金を介しない決済システムです。カード会社には手数料収入が、保有者には割引やサービスがあります。加盟店には、固定客化の効果、提携企業の顧客の呼び込み、会員情報や購買行動の共有・分析による横断的マーケティング・商品開発も期待できます。

ポイントを餌にした電子決済の促進が政治主導で行われています。消費税率引き上げの経済対策として、キャッシュレス決済(電子マネー)によるポイント還元制度です。買い物客は、すっかりポイントカードに慣れ親しんでいます。PayPayなどのアプリの利用は、スマホ所持者にとっては必須となっています。先日も、スマホを買い替えて、下取りの金額がPayPayに入るというので、嫌だったのですが、契約の流れで餌(4,800円)につられて了解してしまいました。

そして9月からは、マイナンバーカードに搭載されたICチップの電子証明を活用した5千円のマイナポイントです。マスクに限らず、もらえる給付・還元はゲットしようと動いてしまう自分が嫌になります。母方の曾祖母から、60年ほど昔に、天子様から頂いたといって500円もらったことを思い出します。老齢年金だったのでしょう。

-21- プラットフォーマー 2020年7月号

大学の個々の授業を,独立したコンテンツとして,共有・配信できる時代の到来です。

GAFA (Google Amazon Facebook Apple)は、仕事、生活、趣味まで、千差万別の用途で活用されます。私的には、Amazonは、ワン・ストップ・ショップです。本・PC・その周辺機器・生活用品・映画・アニメ・音楽、何でも購入・契約できます。Googleでは、学術情報、地図、動画と、幅広いコンテンツを探索・入手できます。無料の情報サービスの代償として、情報探索行動のすべてを個人情報として差し出しています。Appleは、iPhoneを戸外のデバイスで使っています。自宅PCとネット環境はWindowsで動くので、Microsoftも含めてGAFA+Mとしてよいでしょう。Facebookは、友人つながりでの情報交換・共有ツールです。

この5社がプラットフォーマー(以下PF)の代表格で、ビジネスモデルを進化・確立し、暮らしを一変させました。PPは「商取引や情報配信などのビジネスを行う者のために、その基盤や環境を構築し、提供する事業者。具体的には、そのためのウェブサイト・ソフトウエア・製品・サービスを提供する大手通信事業者・コンピューター関連企業・IT企業など」(JapanKnowledgeのデジタル大辞泉)です。PFは、ビジネス基盤・環境を提供し、複数の製造者や製作者の製品、コンテンツ、サービスを、一括してプラットフォームに載せ、選択・入手・購入において、顧客の利便性を実現します。

既に、PF は住民生活に必要不可欠な基盤サービスとなり、老若男女を問わず浸透し、手放せません。私たちがPF のサービスに費やす時間と経費は、PF から得ている利便性(成果)に見合っています。

五味史充. プラットフォーマーの台頭と既存ビジネスの抵抗. Information. 2018, no. 15, p. 53-61. [IRDB:学術機関リポジトリデータベース〈https://irdb.nii.ac.jp/〉で入手可]

ニッチな例はMaaS(Mobility as a Service:マース)です。異なる交通手段の検索・予約・決済を一括して提供します。移動に特化したPFで、これまでの個人所有・手配での移動から、電車、バス、タクシー、カーシェア、自転車シェアを一括して、スマホ1台で経路検索、予約、支払まで可能にする仕掛けです。交通各社や地方自治体の交通・移動データの標準化・共有、運賃制度の調整などがハードルですが、技術的には可能です。

特集:移動革命『週刊エコノミスト』(2019年7月30日号 97巻30号)[JapanKnowledge より] 大学も発想転換し、PF を夢想してみましょう。

-20- サブスク 2020 年6月号

自宅で過ごす時間が増え、映画や音楽を観放題、聴き放題の Amazon Prime (月額 500 円) を契約しました。アニメ、TV ドラマ、映画、高校の頃に聴いたロックを、パソコン、タブレット、スマホで視聴しています。Amazon には、本、PC・周辺機器、生活用品まで、生活の相当部分を依存しているので、その範囲を拡大することは躊躇していましたが、その軍門に下ってしまいました。

一定金額を支払い,契約期間内なら商品やサービスを何度も自由に利用できるサブスクリプションというビジネスモデルです。サブスクという省略形が一般に使われています。契約も簡単で,サービス内容も豊富なため,とにかく便利です。

Amazon Prime は娯楽用です。調査研究用には、複数の辞書・事典を全文検索できるジャパン・ナレッジ(JapanKnowledge)、全国紙・地方紙の検索・全文記事やビジネス情報を提供するジー・サーチ(G-Search)、日本の医学文献検索サービスの医中誌 Web などのデータベース(DB)です。

4つの契約金額の合計は1ケ月5千円以下と、スマホに支払う金額程度です。スマホもサブスクの一形態ですから、毎月のサブスク代は1万円程度です。これら以外にも、ケーブルテレビ、インターネットの回線とサーバーもあります。メディアや通信は物理的な形をもたず、本や雑貨を購入して所有する形態とは異なりますが、その支出金額は、銀行通帳やクレジット明細に記載されます。

サブスクも購入物品も、自宅まで届けられます。サブスクのサービスは外出先でも利用できます。映画を自宅のWi-Fiでスマホにダウンロードしておけば、ネット回線を使わなくとも電車の中でも映画が観れます。楽曲も同様です。

個人の娯楽は、自腹でサブスクしますが、大学 在職中に使っていた調査研究用 DB は上記の3つ だけではありませんでした。朝日、読売、毎日、 日経などの全国紙のDBまでは、流石に個人での サブスクの手に余ります。半年から1年で無料公 開させる電子ジャーナルも多くなりましたが、在 職中のように、最新号を閲覧できる環境は望むべ くもありません。

本来なら、近隣の公立図書館で、個人のサブスクでは手の届かない情報提供をすべきです。しかし、本の貸出が主な業務である公立図書館は、調査研究の頼りにはなりません。しかし、国立国会図書館まで出かければ、コピー料金が必要なものの、調査研究に必要な情報のほとんど全てが入手可能です。サブスクと図書館を組み合わせて、ベストな情報環境を構築したいものです。

-19- 大学における互恵互助 2020年5月号

大学図書館は、1961年の日本学術会議による 「大学図書館の整備、拡充について(勧告)」で は、蔵書数がきわめて貧弱と指摘されました。

『我が国の学術』(文部省学術国際局 1975)では、"学術情報流通体制は、研究成果として公表される図書・雑誌等の記録物を収集、蓄積し、研究者の求めに応じて迅速、的確に提供するための体制であり、特に、戦後の「情報の爆発」的増加によって重要性を増した"(p. 276)とあります。また、北米の1つの大学図書館の平均蔵書数約200万冊に比して、我が国の5学部以上の大学図書館の約75万冊は半分以下であり、学生一人当たりの年間貸出冊数は、北米では29冊、我が国では4冊と、7分の1以下で、格段の差があると分析しています(p. 63-64)。

蔵書数と貸出冊数の差が、日米の教育の差とは、一概に言えませんが、教育環境の整備状況においては、分かり易い評価指標として、大学図書館が整備・拡充される根拠になります。

1974年の我が国の全大学図書館の蔵書数7,650万冊は,2019年には3億2,870万冊と,4倍以上になっています。所得倍増計画,科学技術研究振興政策,高等教育政策の背景もあります。大学の施設・設備の拡充と共に,研究・教育効果を高めるため,大学全体として,図書館の図書・雑誌などの蔵書拡充に邁進してきた成果の一つです。

また、1大学の蔵書による研究・教育よりも、全大学の蔵書を活用するほうが有効です。そのため、「相互協力体制の整備」も政策的に推進されました。"学術情報量の増大及び学問研究の多様化などに伴い、大学の枠を超えた資料の分担収集、整理の一元化、相互利用の促進など図書館間相互協力体制の整備"(p. 282)が図られました。

相互貸借は、競合する大学間での、図書の貸出や雑誌論文のコピーでの提供です。ロボット三原則で知られる SF 作家アイザック・アシモフ『ファウンデーションの彼方へ』(早川書房 1984)でも、"図書館相互貸借制度の楽しみを知った。遠い世界から取寄せた資料のプリントアウトを手に入れた"(p. 47)と、未来小説にも出てきます。図書館における相互協力制度は、学術情報流通体制を支える重要な部分です。

しかし、改めて考えてみると、競合大学間での 図書や雑誌などの情報資源共有は、使っても減ら ない情報とはいえ、困っている敵に塩を送る行為 です。学術情報流通の世界や、図書館界における 「互恵互助」は、困っているもの同士が助け合う 「武士は相身互い」なのでしょう。

-18- 本という不思議な商品 2020 年 4 月号

本は不思議な商品です。作家によって生み出された一冊の本は、数千部から数万部が印刷され、 書店に並び、読者は現物を手に取って買い求めます。同じ内容の本でも、個々の読者によっても、ひとりの読者のその時の気分や経験によっても、全く異なった解釈と感動を生み出します。多様な読み方と解釈を、自由にできる点が、本の文化的な面白さです。

一方で、直接に手に取らなくても、書名を見ただけで、本を買い求めることもできます。衣料品は、手触りや風合い、実際の見た目の感覚が判断基準になります。野菜は、新鮮さや色合い、大きさや匂いによって、買うかどうかを決めます。アマゾンが、ネット通販で最初に本を商品としたのは、書名・作家で判断して購入しても、当たり外れは許容範囲で、輸送中の破損もなく、返品が皆無で、ネット通販には最適の商品だからです。商品としての扱い易さが、本の商品特性です。

本の備えている文化性と商品性が、読者にとっては、本への愛着や、興味を引き出します。本が好きで、本を蓄積する図書館という職業に興味をもった私もいます。人間形成にこそ、本は貢献するのではないでしょうか。

本をテーマとした本が、多く出版されるのも、 本の文化性と商品性によるものです。一時、本や 活字、出版社や書店が消滅するという、自虐的な 書名の本が出版されました。

『活字が消えた日』1994

中西秀彦(『電子書籍は本の夢を見るか』も) 『本はどのように消えてゆくのか』1996

津野海太郎(『季刊・本とコンピュータ』も) 『出版社と書店はいかにして消えていくか』1999 小田光雄(『出版状況クロニクル』も)

『誰が「本」を殺すのか』2001

佐野眞一(ダイエーを描いた『カリスマ』も) 一方で、最近は、本の力や、書店の創業に関す る、プラス志向の本も多くなりました。追い詰め られて、逆襲に転じたのかもしれません。

『本を生みだす力』2011

佐藤郁哉(『質的データ分析法』も)ほか

『本の逆襲』2013

内沼晋太郎(下北沢「本屋 B&B」も)

『本の力』2014

高井昌史(紀伊國屋書店代表取締役社長)

『本屋, はじめました』2017

辻山良雄(西荻窪の小さな書店「Title」)

本それ自体を商材としてしまえる,そのしたたかさこそが,本の不思議な力(チカラ)の源泉といえるのでしょう。

-17- 命から学ぶ 2020年3月号

旭川市旭山動物園は、ペンギンの散歩などの行動展示や、上野動物園を抜いた入場者数日本一を達成したことで、大きく報道され、一般的にも知られています。『旭山動物園のつくり方』(文春文庫 2006, 柏艪舎 2005)では、開園した 1967年から 2005年までの姿を、動物園への取材に動物の写真を交えて紹介しています。

入場者減少や動物への感染症など、廃園の危機を乗り越えることができたのは、単に動物の姿だけをみせるのではなく、動物の生き方や命を伝えたいという、動物園としての在り方と飼育員の強い想いでした。動物園の運営と飼育員の底流に流れていた、在り方と想いが、危機を乗り越えることのできた原動力です。その2つが読者に伝わって、強く印象に残る内容の本です。

さて、普段は触れることのない珍しい古書・貴 重書と、動物園に行かなければみることのできな い野生動物について、その違いの説明を求められ た経験があります。小学生への貴重書の体感授業 を神奈川県の助成事業として、「昔の本にさわっ てみよう!」という企画で、大学が応募した際の ことです。教育局の方の「珍しさという点で、動 物と貴重書に違いはあるのか。余裕のない時間割 で、授業に追加する意味は何なのか」との本質的 な問いは、長年の宿題になりました。

助成事業に採用されたのは、実際に貴重書をもって小学校に出かけ、小学生が貴重書に触れるという、大学教員と図書館員の判断でしょう。事業が成功したのは、校長先生、学校司書、学年主任の先生、関係者の理解と協力があったからです。 手作り和装本でのお母さんたちの協力は、大きな励みになりました。

教科との連携では、思わぬ発見がありました。 埋め立てによる「吉田新田」の開発が、社会科の 教科書の「昔のくらしとまちづくり」で取り上げられていて、その場所を、持っていった貴重書の 多色刷り版画『横浜開港図絵』上に示すことができました。これは、小学校の先生の指摘でした。 教科書に掲載の古地図と異なり、開港当時の港の 外国船の様子と、新田開発の埋め立てが、地図上でつながりました。

動物の生き方や命と、知識の蓄積ともいえる本が持つチカラは、受け手に伝わるメッセージの内容や感動において異なります。しかし、命や知識をつなぎ、人と人をつなぐ点において、動物と本が及ぼす効果は同等です。この本を読んで、宿題への一つの解を得たと感じました。

旭山動物園、一度は訪ねてみたい聖地です。

-16-自己革新から学ぶ 2020年2月号

野中郁次郎『アメリカ海兵隊:非営利型組織の自己革新』(中公新書 1995)では、「不変の存在価値を堅持しつつ機能的価値を革新し続けるのが、自己革新組織」であり、海兵隊を自己革新組織の原型の一つとしています(p. 203)。不断に、外的要因に対し、自己を開き、活力を自らに取り込み、自己を革新し続ける組織が理想です。

アメリカ海兵隊は、1775年に英国をまねて創立されました。その使命は、時代の変化と共に大きく変貌します。風力と荒くれ水夫の人力による、木造帆船時代には、船内秩序と規律を水夫に守らせる、警察官の役割でした。

その後、蒸気動力による鋼鉄艦の時代には、前進基地の確保と防御になりました。警察官的存在が、知的な近代海軍の水兵の軍人精神の発展を妨げ、水兵の責任感を発達させる機会を奪うと、非難されたことに対応した、外部要因による変化でした。アメリカが海軍国として台頭し、艦隊作戦に必要な前進基地の重要性が増したからです。

これは、海兵隊自身の主体的な変化ではないものの、防衛機能に伴い、新たな分野の能力や機能が求められました。要塞の構築、船から要塞への砲の輸送と据付、電信電話戦の設置と操作です。 建設、輸送、通信という能力や機能は、当初の警察機能とは全く異質です。外部要因に対応し、内発的自己革新から、機能価値が高まりました。

更なる変化は、前進基地「防衛」から、一歩進んで、敵の保有する前進基地の「奪取」への転換です。太平洋に点在する敵の前進基地への攻撃的な水陸両用作戦が、新たなコンセプトとして提言されます。作戦実現の「予算獲得」のため、政治的活動も展開しました。作戦のため、組織改革、マニュアル整備、装備のイノベーションもなされました。また、「組織改革」は、作戦における指揮系統の整備、上陸に際しての艦砲射撃、偵察と通信による航空支援、部隊への補給・装備のための科学的な兵站(ロジスティクス)の方法です。特殊装備としての、上陸用舟艇、平底船、水陸両用装軌車の「開発」もされました。

先の内発的改革に続き、戦略の変化に即応する ための、内部要因による自己革新です。非営利組 織である海兵隊から、同様の組織である大学や図 書館が学ぶべき点は多々あります。

本書と共に、元海兵隊の隊員が主演のテレビドラマ『NCIS: ネイビー犯罪捜査班』は、時代小説『鬼平犯科帳』と同様、リーダーが苦悩を内に秘め、スピード感のある展開が爽快です。

-15- 失敗から学ぶ 2020年1月号

職場の仕事が上手く進まず、自分の能力不足を 嘆いた後、職場の組織構造に問題があるのではと 考えることがあります。そんな時、何度も読み返 したロングセラー本があります。

組織としての日本軍の失敗を,現代の組織一般の教訓や反面教師として活用することをねらった,戸部良一;野中郁次郎ほか『失敗の本質:日本軍の組織論的研究』(中公文庫 1991, ダイヤモンド社 1984)です。

人の暮らしや、勤務先での仕事は、職場の規則における組織の階層構造の中で営まれ、遂行されます。先月までに、家・施設・街として論じた建築による物理的支配より、格段に複雑な精神的支配です。組織の使命が人の気持ちより優先され、滅私奉公によって両者間の相互作用を否定します。構成員からのフィードバックが効かなくなり、組織は暴走することもあります。

本書では、失敗事例として、ノモンハン事件、ミッドウェー作戦、ガダルカナル作戦、インパール作戦、レイテ海戦、沖縄戦を取りあげ、戦略と組織での失敗の本質を分析しています。次に、組織上の失敗要因として、属人的な組織、学習の軽視、結果より敢闘精神の重視、をあげています。最後に、失敗の分析から得られた教訓として、組織の進化には新しい情報を、知識まで組織化する必要性を強調しています。

わき道にそれますが、大学図書館の今後についても考えが及びます。要因における学習の軽視では、組織学習に不可欠なのは「情報の共有システム」、教訓の部分では「情報の組織化」が印象に残ります。組織化と共有は、図書館の重要な機能と重なっています。大学図書館の今後の役割として、情報の組織化と共有の対象を、図書館資料から高等教育サービスまで拡大できます。大学内の情報やネットワークのシステム、全学の教学システムの管理・運営などです。

本書の最後では、戦前の日本軍における長老体制の定着と、過去の成功体験の上層部への固定化を指摘し、日本的企業組織も、新たな環境変化に対応するために、自己革新能力を創造できるかが問われている、と結んでいます(p.400)。日本の企業や政治でも同様です。戦後以降の教育改革も失敗とまでは言えません。しかし、昨今の紆余曲折する入試改革の現状をみても、教育改革や大学運営の戦略と組織における課題を分析・解明することの必要性を痛感します。既に、論点を整理・解明した本があればご教示いただけないものでしょうか。

-14- 人間の街を歩く 2019年12月号

街を歩いていると、ヒヤッとすることや、困ってしまうことがあります。信号機のない横断歩道を渡る時、車はほとんど停止しません。停止してくれたドライバーには「どうも」と会釈をします。横断歩道のない道路を、車の合間をぬって横切る人も見かけます。近くの信号まで歩く余裕がなくなる気持ちは何故なのかと思う一方で、歩行者に優しくない街であることを痛感します。

道路や車だけでなく、歩道を歩いていると、自 転車がギリギリで通り抜けます。なるべく道の端 を歩き、家内と二人で歩いているときは、幅をと って、急いでいる人の邪魔にならないよう、一列 縦隊です。横並びで話しながらゆっくり歩く集団 は蹴とばしたくなるので、お互い様です。

ヤン・ゲール『人間の街:公共空間のデザイン』(鹿島出版会 2014)は、先月紹介した本の著者の建築家の方に紹介されました。取り壊される予定の図書館建築を見学する会の帰り、電車の中での話しに出てきました。人間の街って何なのだろうと、本のタイトルに強く惹かれました。

翻訳本の帯には、"実践に裏づけられた公共空間デザイン論 街の主役は人 私たちが街をつくり、街が私たちをつくる 人間的スケールの「生き生きとした、安全で、持続可能で、健康的な街」を取り戻すには"とあります。

人の歩く歩道がない車道が多いです。人のすれ 違えない、アリバイ証明のような幅の歩道だけの 道路もあります。横断歩道がなく、歩道橋の架か っている道は、階段を登って渡らなければなりま せん。年を取ると辛そうなので、フレイル対策で 足腰を維持する散歩を心掛け、街を歩きます。

数十年前につくられた道路の幅は狭く、現代の 家族向けに大型化した車が、我が物顔に通り過ぎ ます。軽自動車の多い県は、一人一台の所有なの だそうで、台数の多さも困ったことと感じます。 自動車は、かさばって重い食料品の買い物や、家 から離れた役所での書類の提出や証明書発行に、 塾への子どもの送迎に、一家に一台、必須の足と なっていることも分かります。

車の通行のためには道路を拡充・修繕しますが、それでも渋滞や事故は起こります。道路工事も自動車製造も、住宅建築と同様、周辺産業も従事者も多く、日本経済の発展に大きく寄与する公共事業であり、日本の主要産業です。でも、どこか変です。経済と成長を優先する、高度成長時代の公共サービスや産業の構造を、教育や文化も含め、街の在り方や、住民の暮らしを優先する、大きな枠組みで街を再考する時代なのでしょう。

-13- 施設利用者の視線 2019 年 11 月号

ショッピングセンター(SC)などの商業施設,市 庁舎や複合化する図書館などの公共施設,高等教 育サービスや地域住民への生涯学習・地域開放が 推進される大学施設に興味があります。3種類の 施設に共通するのは,運営・サービス基盤として 建築に大きく依存度する点(施設依存)と,不特定 多数の人たちが利用する点(多様な利用)です。

商業施設は消費を促進し、公共施設は生活向上を促進し、大学は知的活動を促進します。しかし、施設利用者・住民の立場では、施設の設置・運営者や建築家の意図を超えて、施設を多様な目的で利用しています。飛躍した言い方ですが、施設がつくられた本来の意図を達成できていない施設とも言えます。

フードコートの座席では、買い物もせず、打ち合わせをしている住民グループや、持参の弁当を食べて昼寝している会社員もいます。図書館には、自習禁止の貼り紙を気にせず、本を読まないで学校の勉強をしている中高校生がいて、友人との待ち合わせにも使われています。大学には高額な学費を払っても講義に集中しない大学生も多くいます。このように、施設は多様な利用を受け入れます。

商業施設「テラスモール湘南」を含んだ駅前再 開発の物語には、経過・現状・評価と共に、3種 類の施設にも通じる建設の意図も語られます。

菅孝能(すげ たかよし);長瀬光市(ながせ こういち)『湘南 C-X(シー・クロス)物語:新しいまちづくりの試み』(有隣新書 2014)

特に、植栽や窓広告制限など、景観に関する部分が、ここまで全体的に考慮されていた開発だったのかと、新鮮な驚きがありました。C-X は成功事例ですが、大規模商業施設が建設されても、供給の増加に需要が追いつかない、既存施設との共倒れ、地元商店街の衰退など、新たな地方の疲弊もあります(p. 203)。

広い敷地の公共施設や商業施設の建設は、地方でも都市部でも目につきます。政府の主導する地域創生や中心市街地活性化、そして、文部科学省の関連では、社会教育施設の複合化・集約化が盛んに行われています。新しくて大きい建築は、それだけでワクワクします。

では、建設投資は景気を底上げしているでしょうか。基盤施設は住民生活の利便性を向上しているでしょうか。本当に必要な建設なのでしょうか。もっと必要な投資があるのではないでしょうか。ワクワクする反面、自分事として立ち止まって考える大切さにも気付きたいものです。

-12- 建築は何でもあり 2019 年 10 月号

「建築は何でもあり」は、20年前に自宅を建てたときの建築家から聞かされた言葉です。建築家のH氏が、僕らの最善な暮らしを、必ず実現してくれるプロだと感じた瞬間でした。

夫婦二人の暮らし方のイメージを伝えてください。車より桁違いに高価な買い物ですから、考えてきたことを、遠慮なく、何でも話してください。建てた経験がない家であり、一生に一度の買い物で、この機会にあれもこれもと、気が大きくなります。工務店の薦めには慎重になること。住みはじめて、最初は建築が人を支配し、人はそこで暮らすうちに、今度は、人が建築を支配する。長いサイクルになります。

僕らと、家とH氏との長い付き合いのはじまりでした。このイメージで暮らして、建築が物心両面から生活を支えてくれました。

「広い部屋」には、1階と2階に各一部屋を配し、2階には階段を昇った先には廊下もなく、リビングに直結しました。工務店の棟梁は、こんなゾーニングは見たことがないと、施工に苦労していました。工務店の担当者から、図面の筋交いを一本外せば大きな窓ができて快適と薦められた時も、光は十分で明るく、大きな窓は光と一緒に熱も部屋に入れ、快適には程遠い上、耐震構造の強さが損なわれると、説明してくれました。

H氏の設計では、階段が吹き抜けになっていて、家に広がりができ、空気も通って、温度調節も上手くいくことになっていました。しかし、勉強机の置き場所として吹き抜けをつぶし、2階のスペースを増やす変更をしました。設計の変更にも前向きに応じてくれました。

ある時、屋根のひさしが工務店標準より長くなっていて、夏の高い昼の太陽を遮って、熱を減らしていることに気づきました。施主の知らないうちに、工務店に強く要望して伸ばしてくれたそうです。この部分では、工務店の儲けが圧縮されたでしょう。長いひさしがなかったら、夏は暑さにあえいでいるか、エアコンの電気代の出費が大きくなっていたことでしょう。

支配が強烈な建築家は多いです。平松剛『光の教会:安藤忠雄の現場』(建築資料研究社 2000)では、コンクリート壁の十字のスリットに、当初は、雨・風・雪が吹き込む想定で、ガラスが嵌め込まれていなかったそうです。国立新美術館の展示(2017年9月)では、1/1 実物サイズの再現で、ガラスが入っていませんでした。話題になる建築を得るには、強烈な才能との対峙が必要です。建築って面白い!プロってすごい!

-11- 共愉 2019 年 9 月号

共愉(conviviality)という言葉に出会ったのは、古瀬幸広:廣瀬克哉『インターネットが変える世界』(岩波新書 432 1996)です。"みんなでワイワイがやがやと楽しい「共愉的な道具」として世界を変える力を秘めています" (p. 189-91)に、大いに共感したのは、20 年以上前でした。

コンヴィヴィアリティ(conviviality)は、思想家のイワン・イリイチによる用語で、辞書的には「宴会気分、陽気さ」という訳語があてられ、イリイチの訳本では、自律共生や、自立共生と訳されています。「みんなで一緒にいきいき楽しい」や「みんなでワイワイがやがやと楽しい」というニュアンスがあります。

個人のWeb サイトを1996年に開設し、その前後に、図書館からは借りずに買って読んだ本です。快楽的に「楽しむ」よりも、愉快に「愉しむ」という字面から「共愉」が気に入りました。

道具としてのパソコンと共に、インターネット接続やWebサイト構築を愉しむ、そんな時代でした。データベース、コミュニケーションツール、更に、市民への情報アクセスの保証としての役割に注目しました。関連図書、雑誌記事があふれていました。主な図書だけでもこれだけあります。

- ・ 奥乃博『インターネット活用術』岩波書店 1996
- ・(社)情報科学技術協会編『情報検索のためのインターネット活用術』日外アソシエーツ 1996
- ・アリアドネ『調査のためのインターネット』ち くま新書 1996
- ・岡部一明『インターネット市民革命』御茶の水 書房 1996

"知識や情報を,自由に他のコンピュータや人間と共有し,交換することができます。そのような方法を持たなかった人間に,新たな驚きをもたらし,新たな課題をなげかけます"村井純『インターネット』(岩波新書 1995 はじめに)

"インターネットは「世界最大の百科全書」として機能"するものの、"インターネットは「探したい」「知りたい」人にとっては革命的なツールでも、意外に生活必需品ではない"古瀬幸広『インターネット活用法』(講談社ブルーバックス 1996 p. 86-87, 104)

インターネットと愉しくつきあうことで、図書館員がみんなでワイワイがやがやと愉しく、図書館サービスを提供できると、本当に思っていました。それらは、20数年後に達成されましたが、90年後半のワクワク感を、もう一度、今度は大学人として、住民として愉しみたいものです。

-10- 大学のつくり方 2019 年8月号

学科増設の際、大学をつくった経験のある教員から、話を伺ったことがあります。既存の短大に、大学を新設した経験談でした。学科や大学院より大変で、設置基準の大綱化前だったので、もっともっと大変ということでした。人脈を頼って、教員を集めたり、カリキュラムをつくったり、申請書類を整えたり。学生募集やお金の話は聞けませんでした。つくることの大変さと、その喜びがシンクロしているような印象を受けました。実際、大学のつくり方がどんなものなのか、ず~っと気になっていました。図書館ができていないので、体育館に本棚を設置して、箱だけを並べて、現地調査を通ったという、嘘とも本当ともつかぬ話を聞かされたこともありました。

清水一行『虚構大学』(光文社文庫 2006)は、1978年8月から1979年3月にかけて雑誌連載され、連載終了後、すぐに単行本化され、その後、3回目の文庫化です。息の長い経済小説といえます。舞台は1964年、学校づくりの名手と称される主人公が、学校法人創設と大学新設を同時に行うフィクションで、紆余曲折と事件が連続した結果のサクセスストーリーです。モデルになった大学があるようで、手に汗握る内容です。

17種類におよぶ添付書類を,正,副控えの各3冊,そのうち事業計画書,予算書類,施設費,財源調書,負債償還計画書,学生納付金調書をそれぞれ30部ずつ提出,スカウトする教授・助教授の就任承諾書,履歴書,業績証明書,図書室に必要な約3万冊の図書目録,これらを大学学術局に運び込む(p. 258-9)。こうした事務手続き。

資金に関わることでは、国有林の払い下げ、当面の設立準備資金から最終的に必要な80億円の調達。更に、学長や理事の人選とパワーバランスから、癖のある学長候補者と、自分の利益しか考えないその取り巻きと、理想的な大学新設を目指す献身的な主人公、これらの登場人物の人間模様と輻輳して物語は展開します。

著者は国の教育制度の抱える問題を浮き彫りにしようとしています。教育とは何なのか、大学とは何なのか。本質的な問題を考える基礎知識を得るには最適の一冊です。小説という表現形式により、人間模様や「虚構」の設定の中に、ドキュメンタリーや教科書からは知り得ない、教育のありのままの姿が織り込まれています。流通好きには、ネット通販のアマゾンと、物流大手のヤマト運輸の熾烈な戦いを描いた、楡周平『ドッグファイト』(角川書店 2016)も、同様のタイプの経済小説です。2冊ともお薦めです。

-9- 成果としての教室 2019 年 7 月号

住民として地域に暮らし、職業として教育に関わり続けていると、何を今更なことを考え、悩みます。高等教育とは何?図書館とは何?その成果は何???考えるほど、答えは逃げていきます。

そんな時に観る映画が『幸せの教室』(2011年99分原題:LARRY CROWNE)です。トム・ハンクス(学生役)は、学歴がないことを理由に、勤めていたスーパーマーケットを突然解雇され、コミュニティ・カレッジに入学し、ジュリア・ロバーツ(教師役)の「S217(非公式の意見術)」を履修します。最初は、海軍での20年の厨房担当の経験を活かして、フレンチトーストのつくり方をスピーチしますが、73点の評価です。何回かの授業を経て、修了試験のスピーチでは「ジオグラフィ・ショー」(地理のお話)を、「ジョージ・バーナード・ショー」に繋げてA+の成績になります。

軍艦で廻った世界の海を紹介し、ショーの格言「愚か者の脳みそは哲学を愚行へ、科学を俗説へ、芸術を衒学へと要約する。ゆえに大学教育がある」を導き、「ショーもスピーチ 217(非公式の意見術)のような講義を大学で学んだのだろう」と教師を持ち上げ、臨席した学生部長とクラスの大喝采を受け、教師の心も射止めます。

冒頭、ガレージセールの隣人が、無料の大学パンフレットを売りつけようとします。その内容を見て入学に踏み切ります。そして、キャンパスに入ると、学生部長が話しかけてきます。スピーチ217では「人生が変わる」、「乾杯の挨拶から就職面接までの円滑な話法」と薦めます。クラスが10名にならないと開講されないらしく、あまり人気のない授業をプッシュします。どうやら、部長は、ジュリア・ロバーツに好意を抱いているようで、先生のサポートもしています。更に、部長の趣味である太極拳のサークルにも誘い、学生想いの熱心な管理職が印象的です。

ECON 1 (経済学)の履修からは、不良債権化した 自宅も処分し、クラスメートとバイク仲間にな り、生活もファッションも一変します。

自分も社会人大学院に通い,通信教育夜間スクーリングで幅広い年代の学生を教えつつ一緒に学んでいます。自分がトム・ハンクスとジュリア・ロバーツに重なる部分を実感する映画です。

東欧人トム・ハンクスが、ジャズ演奏者のサインをもらいに米国を訪れて空港で足止めされ、そこで働く人たちとの交流が描かれる『ターミナル』(2004 年 129 分)も、ほっとする内容です。大学と図書館というテーマでは、『幸せの教室』が、大いにピッタリです。

-8- バーコードと流通 2019年6月号

科学技術の発展は、社会生活を一変させます。 コンピューターよる自動化技術によって「消える 職業」や「なくなる仕事」も話題になっていま す。本やメディアに関しては、印刷技術とインタ ーネットであり、今回、取り上げるのは、流通革 命に貢献したバーコードです。身近に実装されて いるのは、スーパーの買い物や、図書館での本の 貸出です。商品パッケージなどに印刷された白と 黒の縦縞模様は、13 桁の数字をシンボル化した もので、一見、高度な発明にはみえないかもしれ ません。しかし、レジスターや業務システムと組 み合わせて、商品購入や貸出手続の時間を大幅に 短縮し、単品別に販売・利用情報を把握できま す。20 世紀最大の発明ともいわれています。

橋本健午『バーコードへの挑戦: 浅野恭右と その時代』(日本経済評論社 1998 p.1)

バーコードの普及には、商品の製造・物流・販売に関わり、家電から菓子に至る全業界の説得・連携・実装が必要でした。その苦労は、コードやシステムの標準化、流通コードセンターの設置、そして、商習慣にこだわる大手・老舗とのやりとりから、セブン・イレブンの全店導入で普及に弾みがつくまで、綿密な取材によって語られています。一つの技術が社会生活に受け入れられるのは、並大抵の苦労ではありません。それだからこそ、我々は大きな恩恵を享受できるのです。

本には、カバーの裏表紙に2段のバーコードが 印刷されています。図書館で貼っている貸出用の バーコードは、商品流通のバーコードとは別のも のです。2段のバーコードは、2つの13桁のコー ドをシンボル化したものです。新潮社が1990年 8月の新刊の文庫からつけ始めました。新しい仕 組みに対しては、そもそも必要なのかという根本 的な疑問や、ブックデザイン面からの抵抗もあり ました。しかし、版元・取次・書店における物流 の合理化や、欲しい本が読者の手元に早く届く効 果も望め、バーコード表示で、本も他の商品と足 並みをそろえることになりました。

本のバーコード表示には前史があります。1970年以前はコードの印刷はありません。1970年には、分類-製品-出版社コードからなる書籍コードが誕生し、1980年には、国際標準図書番号(ISBN)に分類・定価を付与した日本図書コードが0CR-Bフォントで、カバーの裏表紙に印刷されます。そして、1990年から、ISBNと分類・定価の2段バーコードとなって現在に至ります。

消耗品として消費されない本には,流通の技術 が刻まれ,流通の歴史が見えてくるでしょう。

-7- パンの哲学 2019 年 4 月号

本よりも、学ぶことよりも、図書館よりも好きなものがあります。粉ものです。ラーメン、パスタなどの麺類、たい焼き、饅頭などの餡子とのコラボ、そして、パンです(米も大好きで産地直送のお米農家は20年以上の贔屓です)。一時期、テニスのジョコビッチで広まったグルテンフリーによるカロリー摂取の総量管理と、ウォーキングによるカロリー燃焼を組み合わせていました。

近所の4キロ四方を歩いていると、季節の草花に目が留まりますが、美味しそうな食べ物も見つかります。ウォーキングは諸刃の剣です。パンの匂いに誘われ、店舗の外から店構えを吟味し、店員さんの動きをチェックし、客層を見極めます。1年ほど前に出会ったパン屋さんが、鵠沼海岸のQuinto(クイント)でした。雰囲気の良いイートインコーナーで、美味しいパンと、お気に入りの本の組み合わせは至福の時です。

味も、食感も、接客も突き抜けています。進化と言えます。クルミとイチジクの組み合わせは普通にありますが、粉の種類と焼き方の組み合わせが違うのでしょう。カリッ、モチッ、フワァです。セコンドという食パンは、焼かないほうが好きだと、店長さんも、売り子さんも言います。確かにその通りです。フンワリとミルクの香りが鼻に抜けます。店員さんが「今日は、何を召し上がりましたか?」と、声をかけてくれます。

お客さんの個体識別と、好みの把握も奨励されているようです。パン作りの職人であり、Quintoも含めた8店舗を構える経営者でもある森社長の書いた本では、人材育成、パンづくり、店づくりの哲学(Philosophy)が解説されています。

森直史『トラスパレンテのパン哲学: 人気店 のこだわりレシピと店づくり』(誠文堂新光 社 2018 2400 円+税)

パン,お店,そしてスタッフへの温かい眼差しは,「スタッフ全員がいつも笑って働けること」と「スタッフに辛いことがあったらできるだけみんなで共有すること」(p.3)に言語化されています。パンの紹介がレシピの2倍もの量で解説され(p.14-167)、僕は、その思いを頂けるのです。

最後は、愛されるパン屋であり続けるために、「お客様が求めるものを」から「トラスパレンテのこれから」と「働くことの将来性」(p. 168-187)で構成されています。

僕は、明日も、本を片手に、このパン屋さんに 通い続けるでしょう。本と大学と図書館は、愛さ れ続けているのでしょうか?進化や哲学はあるの でしょうか?

-6- FG I 2019年2月号

新たなサービスや製品の開発や、顧客満足度調査ではアンケート調査やインタビュー調査が行われます。大学では学生生活実態調査を、図書館では利用者調査を頻繁に実施します。これらの調査結果は課題解決に役立っているのでしょうか?調査自体が目的化して、ユーザー志向であることのアリバイ工作や、調査者の自己満足に終わっていることはないのでしょうか?調査の集計結果・分析・対策が明記された報告書が公開されることも少ないのではないでしょうか?

最近、図書館利用者調査に関わる機会がありました。その集計結果と分析概要の公開のされ方について、住民の立場から疑問を感じました。図書館の利用頻度や利用目的などの定量的な集計結果より、アンケート調査の自由記入欄が気になりました。住民の生の声が満載です。駐車場や駐輪場が足りない、バリアフリーが不十分という多くの声があります。一方、検索システムの仕組みに関しての少数(というより一つ)のレアな不満もあります。こうしたレアな声に耳を傾ける必要があるのではないでしょうか?定量的に見て、少ないから無視という対応になってはいないでしょうか?

レアな声の真相に迫るには、6名程度のグループによるFGI(フォーカス・グループ・インタビューインタービュー)が有効です。以下のプリンターに関する事例が、非常に納得できます。

カラープリンタの満足度調査の「より印字速度を速く」への対応には、技術的・コスト的に大変です。FGIを実施して、「印字速度が遅い」を深く聞いてみると、インクがにじんだり、紙詰まりを起こしたり、何度も失敗して時間がかかるという状況が明らかになります。対応は、印字速度を速めるのをやめて、シートフィーダーの性能をあげたり、インクがにじまないようなものに変えることによって「印字速度が遅い」という不満を解消することになります。住民・生活者の言葉と、製品製造者・サービス提供者の言葉・感覚にギャップがあるのです。

昨今,両者間のギャップは広がり続けています。ギャップを認識し,乗り越えるためにも,学生生活実態調査や図書館利用者調査において,FGIや定性調査がもっと活用されるとよいと考えるこの頃です。

今月は自分の論文の紹介ですが、ご一読ください。そして、FGIやってみませんか?

長谷川豊祐. フォーカス・グループ・インタ ビューは利用要求を解明する. 現代の図書 館. 2010, 48(2), p. 78-88. http://toyohir o. org/BookUnivLib/fgi.pdf

-5- 本を買う 2019年1月号

先月号で宮原さんが紹介された自伝『こころの 風景』(北日本新聞社 1999)を起点に、芋づる式に資料を検索してみました。著者の吉枝喜久保氏は、K社の外商部門を立ち上げた方で、FMICSについても本書でふれられています(p. 184-7)。検索したのは、大学で購入する本や雑誌は、K社やM社など、大手書店の外商を経由するので、流通の仕組みへの興味からです。

波多野聖『本屋稼業』(角川春樹事務所 2016) が見つかりました。日本では本の売り上げが落ち込んでいるので、リアル書店で買おうとしましたが、歩いて行ける範囲の書店にも、隣駅の書店の店頭在庫にもありません。書店で注文して取り寄せると日数がかかり過ぎます。ネット書店には在庫があり、24 時間、365 日、何時でも、何処からでも注文可能です。しかし、アマゾン社以外のネット書店では送料の発生がほとんどです。店頭受け取りもできますが、在庫のある書店の方面に出かける用事がない限り、交通費がかかります。

結局,歩いて10分のF市図書館の分館が所蔵しているので、そこで借りることにしました。「本屋が好き。本屋という景色が」、「本屋稼業が好きでたまらない」というセリフが心に響きます。本を買う方法は複数ありますが、この本だけはリアルK書店で買おうと決めています。ちなみに、ヒットしたW大学図書館紀要に掲載された論文は、フルテキストが公開されていて簡単に入手できました。

さて、『こころの風景』の入手です。この本は 絶版らしい上に、所蔵する図書館も遠く、アマゾン社のサイトから古書で買いました。在庫豊富、 送料無料、早い到着で、買う際には最有力の入手 先になります。活字離れだけでなく、アマゾン社 の手軽さの反作用としてリアル書店が減り続けて いるのでしょう。易きに流されず、本を買うなら リアル書店と自戒しているのですが・・・。

本書の興味深い内容は、1)稀覯・大型のコレクションの納入、2)顧客である大学教職員の営業用データを蓄積したカード形式の得意先台帳の活用、3)大学新増設支援の様子、4)開学後の資料の一手受注を目指した目録カードの添付サービス、など。昭和30年代末からの第一次大学新設ブームの様子は、大学人としても興味深いでしょう。

書店では、本が文化的側面を捨象した単なる商材として扱われることもあります。大学や図書館も同様に、電子メディアやICTの発達と、ユーザー要求の変容へ、真摯な対応が必要です。

-4- 情報リテラシー 2018年12月号

新聞等でも話題の新井紀子著『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』(東洋経済新報社 2018. 2)では、学力以前に、教科書の文章を理解できていないので、アクティブラーニングも英語も順番が違うという主張が、特に印象的でした。問題文に出現する分からない漢字を飛ばして読むのでは、問題を理解していないことになります。解答が正答か誤答か、それ以前の問題です。

読めない子どもが大人になり、指示や仕事の趣旨を理解できていない社会人になると感じるのは私だけでなないでしょう。これは、リテラシーの問題であり、特に最初の読みの障害でしょう。

リテラシー(literacy:識字)とは、文章を読み、内容を理解し、文章を書き、計算すること、更に、それらができる能力を備えていることです。要するに、読み書き算盤です。Reading、wRiting、aRithmeticのRから、3R's(スリーアールズ)とも、英語では言われます。特定の分野や対象を冠して「情報リテラシー」、「コンピュータリテラシー」、「メディアリテラシー」などのように用いられることもあります。

10年前から「図書館・情報学」という科目を 担当しています。授業目標は以下の3点です。一 般教養的な内容で、社会人基礎力ともいえます。

- a) 社会生活における課題発見とその解決のため に、情報を正しく理解して活用する能力を身 につける。
- b)情報活用能力を身につけるために、情報メディアと、情報の組織的な提供機関である図書館の基礎的な事項について、その特徴や仕組みを知る。
- c)情報の収集・評価・発信の基礎的な演習により、情報メディアと図書館を活用するための 理解を深める。

この授業の演習の一つとして、学術論文を要約する課題を課しています。学術論文をインターネットや図書館から入手して、その内容を、目的、方法、結果、結論の4項目に再構成して、論文をコンパクトにまとめて書く課題です。この要約の課題を2回繰り返すので、論文の検索、論文の読み、内容の理解・評価、書くことに習熟する機会になります。

選択した論文を読むことは、レポートや卒論を 書く時の参考にもなります。良質な「読み」が、 成果(書くこと)につながり、履修生に好評です。 皆さんも、業務上で興味のあるテーマで論文を検 索し、要約してみてはいかがでしょうか。リテラ シーが向上すること請け合いです。

-3- 引用分析と Google 2018 年 11 月号

「もしわたしがきみだったら、細胞形質膜内にあるタンパク質の位置同定に役立つ、前田の濃度別遠心分離法の技術を、その後、誰が使ったか調べるため、『引用論文目録』から始めるね」と、ノーベル賞候補の細胞生物学者・カンター教授は、教え子のジェリーに指示します。『カンター教授のジレンマ』(カール・ジェラッシ著文藝春秋 1994 p. 62)に、こうあります。

この本は教授と弟子のノーベル賞受賞のドタバタ小説で、改題改訳され、『ノーベル賞への後ろめたい道』(講談社 2001)としても出版されています。本の帯で「可愛すぎる学者」と表現される大学の研究者たちが、研究し、その成果を学術雑誌に投稿し、査読を経て掲載に至る学術情報流通の実態も描かれます。ジェリーと恋人の化学者、恋人の師匠とルームメイトの英文学者が4人で、学問分野の「しきたり」について論争もします。研究者の生態を赤裸々に描いた小説で、教員や研究を理解するうえで、大学職員の必読書です。

『引用論文目録』とは、世界の大学ランキングにおいて、論文の引用数を算出するデータベース『Web of Science』のもとになった『Science Citation Index』(SCI)のことです。例えば、「2010年の前田論文の参考論文リスト」(A)は2010年以前の関連論文が遡って記載されます。一方、SCI は前田論文を引用している2010年以降の新しい論文とその参考論文リストの全部をデータとして搭載しているので、「前田論文を引用している論文リスト」(B)を生成できます。

(A)は2010年以前の古い論文、(B)は2010年以降の新しい論文です。(B)から前田論文の展開を追えます。これが引用分析です。(B)から前田論文を引用している論文の数が「引用数」として算出され、同様に他の研究者の論文の引用数も算出されます。引用数の多い論文が、他の論文からの評価を獲得した、その領域の重要論文です。

Google Scholar でも引用数はわかります。SCI を更に知るには、『科学を計る:ガーフィールドとインパクト・ファクター』(窪田輝蔵著 インターメディカル 1996)がお薦めです。

さて、検索エンジンで高いシェアを誇る「グーグル」のページランクは、リンクを引用と見立て、Webページ間のリンク関係によってWebページの重みを解析しています。その結果、検索語に合致するだろうWebページが上位に表示されます。

引用分析は、研究における関連論文調査からは じまり、大学ランキングの評価指標の一つとな り、更に、検索エンジンの表示順序の技術として も用いられるようになりました。情報技術が多方 面に展開する好例といえます。

-2- 業務分析 2018 年 10 月号

戦後,新制大学が発足して大学と学生の数が増加するブルーオーシャン(競争のない業界)の時代は終焉を迎え,高等教育業界はレッドオーシャン(競争の激しい業界)の時代になりました。大学の図書館に目を向けると,青の時代に、図書館の蔵書と建物は、物理的・経費的に拡大し続けました。図書館の拡大傾向は「宿命」です。

学校教育法83条で,「大学は,学術の中心として,広く知識を授けるとともに,深く専門の学芸を教授研究し,知的,道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」とあり,大学設置基準38条(図書等の資料及び図書館)に,「大学は,学部の種類,規模等に応じ,図書,学術雑誌,視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を,図書館を中心に系統的に備える」とあります。更に,適当な規模の閲覧室・書庫,学生の学習に十分な数の座席を備えると続きます。学部・学科や学生の増加に従い,図書館は成長・拡大します。

経済も成長している青の時代ならばともかく, 赤の時代においては,図書館は,一生成長を続ける恐竜のような非効率な生き物になりかねません しかし,「図書館には,その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員 を置く」ともあり,赤の時代における品質の維持・向上の条項が,踏み込んで基準を解釈すれば,きちんと組み込まれていることがわかります。また,「資料の提供に関して他大学図書館との協力に努める」と連携の方向も示されています。

改めて品質の維持・向上と,資料提供の連携を 再構築する際に,『大学図書館の業務分析』(全国 国立大学図書館長会議編 1968 日本図書館協会) が参考になります。この本には,用語の規定や解 説,業務の具体的な内容,業務の専門性・困難 性・責任性が分かりやすく記述され,業務改善と 人材育成に活用できます。

半世紀前の発行ですが、図書館の普遍的機能 や、機能を実現する業務の土台を再発見できま す。例えば、資料の収集・選択の章には、「この 業務は、教官や学生の要求、カリキュラムの調 査, 学会の研究動向の把握, 資料構成の検討, 利 用状況の分析、資料収集方法の調査などの一連の 作業を基礎として行われる。(中略) 大学の教 育・研究活動に対する深い理解と広範な資料に対 する専門的知識、ならびに適切な資料収集のため の企画力が必要」とあります。現状から解釈すれ ば、電子ジャーナルの利用状況の把握、ネット書 店からの資料購入も視野に入り、インターネット や電子メディアにも十分対応可能です。図書館運 営に限らず,人員,経費を節減し,サービスを向 上させる効率運営の実現に向うには良い本なので お薦めです。

-1- 四六答申 2018 年 9 月号

本は、図書、雑誌、新聞、インターネットまでを含めたメディア全般を広く捉えています。同様に、大学は、就園前から学校、社会、地域までの生涯に渡る教育の全般です。また、図書館は、出版流通から書店と読者、更に、公民館や児童館などの社会教育施設など、「本」が置かれている施設や場所も含めたシステム全般です。

改めて、初等教育から高等教育のあり方を俯瞰する際、47年前の『教育改革のための基本的施策:今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について』(中央教育審議会答申 1971 194p)が参考になります。四六(よんろく)答申と呼ばれ、学校教育全般の施策のあり方と背景が丁寧に記述されています。

Google でこの答申を探すと、文部科学省「過去の中央教育審議会」から、審議の経過と諮問理由説明を除いた、本文と付録の一部が閲覧できます。インターネット書店でもあるアマゾンからは、発行当時の350円に近い価格で購入することができました。参照したい資料を、自宅からインターネット閲覧でも、古書でも入手できる、ユーザー的には便利な時代になりました。大学図書館の図書や雑誌の所蔵状況を検索できる「CiNii Books」(サイニィ・ブックス)では、全国約950大学・短期大学の図書館の数割が所蔵しているだけです。

答申には図書館への直接の言及はありませんが、現代の図書館にける重要案件である、情報化社会(a)、生涯学習(b)、ラーニング・コモンズ(c)に繋がる記述があります。(a)高度技術化社会や社会の情報化への対応(p. 128, 136)、(b)家庭教育・学校教育・社会教育の相互補完的役割を総合的に再編する生涯教育(p. 12-3, 126-7)、(c)少人数での演習・実験による学生・教員の相互啓発(p. 60)です。

27 年後の『21 世紀の大学像と今後の改革方策 について:競争的環境の中で個性が輝く大学』

(大学審議会答申 1998)では、「教室外における 主体的学習の学習環境整備のために、図書館の座 席数、必読図書の所要冊数の確保、開館時間や開 館日、貸出期間などについて施設・設備利用面の 整備への留意」を求めています。

また、『大学図書館の整備について(審議のまとめ):変革する大学にあって求められる大学図書館像』(2000 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会)では、大学図書館の教育活動への直接の関与を期待し「情報リテラシー教育では、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野に入れるべきである」(p. 7)としています。

現在の教育施策のルーツを探るため、四六答申 の再読には大きな意味があるでしょう。